《書闘家No.012》 **山田 知幸（やまだ ともゆき）** **『夢の終わりに』**

〝気軽に読めて前向きになれる、軽快なストーリー。〟

夢を持たないマイペース高校生の卓朗。

高校3年、2学期始業式当日、卓朗が登校すると生徒会長の神林が失踪し、神隠し事件として騒がれていた。

神林が見つからないまま、卓朗の幼馴染みであり生徒会副会長、香織の代理で式は行われる。式は無事終わるが、生徒会室では顧問の斎藤が毒物により危険な状態に。

始業式の打ち合わせに朝早くから参加していた生徒会2年のメガネに事情を聞くため、卓朗は親友の早川と一緒にメガネを探し回る。しかし二人が見つけたのは、神林の死体だった。

実は昨夜、卓朗は夢の中で何かが起こると予感していた。身の周りに危険が迫る中、何も出来ない無力な自分に絶望するが、この事件をきっかけに卓朗は将来の道を見つける事となる。

皮肉にもそのきっかけを与えたのが殺人事件の犯人だった。

そして10年後、卓朗は当時の後悔を払拭するために、ようやく一編の小説を書き上げる。